

地域に根差したリハビリテーション Position Statement on Community-based Rehabilitation 2004
--

## 見解

WFOTは、地域に根差した実践(Community-based rehabilitation: CBR)とは実際何か、どうあるべきか、について幅広い意見や哲学があることを認める。CBRは、非常に多様な障害に関連する実践を含む。この文書は、障害者のリハビリテーション、機会の平等、社会統合のための地域開発の戦略としてCBRを理解することを基本とする。CBRは、障害者自身、家族、地域の積極的参加と共に、地域のさまざまな関係者の努力とが一体となって実践される。CBRは、利用者と提供者双方にとって、適切な健康、教育、社会的、職業的などのサービスへのアクセスと参加の両方を促進する。

WFOTは、世界中に6億人の障害者がいること、特に「開発途上国」に多いこと(ここに限定されているわけではないが)を重視している。「開発途上国」の家族や地域は、日常生活において尊厳ある意味ある参加をすることが制限されていたり、それができなかつたりしている。作業療法士は、こうした現実に対して批判的に気づき理解を深めている。この現実には、作業隔離、作業剥奪、作業的公正といった新たな問題に目を向けさせ、情報を与えるものである。作業療法士は、特定の中核となる原則を発展させることに努めている。一つはすべての人の権利であり、障害者も含み、作業を通して自分自身の運命を決める各人の能力と力を発達させるという権利である。これはCBRの基本的主張と一致する。

作業療法士は、CBRにおいてトレーナーや教育者として仕事をしてきている。プログラムを促進し、発展させる目的をもって、地域の人々に知識や技能を移転するということをしてきた。その他に地域での「ハンズオン」としても仕事をし、処方の下でサービスを提供したり、プログラムリーダーとしてのポジションで働いたりしてきた。現在のCBRにおいて国外者と地域の実践者が何人いるのかについて、数の統計はない。

## WFOTのポジション

WFOTは、作業療法士がCBRを通して、障害者や家族の生活に変化を起こすという貢献をしていると認めている。WFOTはCBRプログラムと障害者の人権の発展と普及をサポートし促進する。WFOTは、CBRにおける統合的な作業療法実践-研究-教育プロジェクトを計画し実行することをサポートする。

このポジションは、障害を経験する人や家族や地域との連合体に結び付くことであり、彼らの問題のために彼らと共に主張し、個々人の経験を共有するものであり、専門職協会が障害者のニーズと、尊厳とインクルージョンの権利をサポートすることをできるようにする。これは開発途上国であっても、先進国であっても行っていく。

<https://www.wfot.org/resources/community-based-rehabilitation>

(2019年11月22日 吉川ひろみ・訳)

## References

- Bodell, S., & Hook, A. (2011). Using Facebook for professional networking: A modern-day essential. *British Journal of Occupational Therapy*, 74, 588 - 590. doi: 10.4276/030802211X13232584581533
- Bodell, S., Hook, A., Penman, M., & Wade, W. (2009). Creating a learning community in today's world: How blogging can facilitate continuing professional development and international learning. *British Journal of Occupational Therapy*, 72, 279–281. doi: 10.1177/030802260907200611
- Boon, S., & Sinclair, C. (2009). A world I don't inhabit: Disquiet and identity in Second Life and Facebook. *Educational Media International*, 46, 99-110. doi: 10.1080/09523980902933565
- United Kingdom Government (2014). Social media guidance for civil servants: October 2014 [Government Guidance]. Retrieved from <https://www.gov.uk/government/publications/social-media-guidance-for-civil-servants>
- Dobrow, S. R., & Higgins, M. C. (2005). Developmental networks and professional identity: A longitudinal study. *Career Development International*, 10, 567 – 583. doi: 10.1108/13620430510620629
- Hamilton, A. L. (2015). *The Importance of Digital Literacy in the Knowledge Era* (Doctoral thesis, Deakin University, Melbourne, Australia). Retrieved from <http://dro.deakin.edu.au/view/DU:30079203>.
- Kashani, R., Burwash, S., & Hamilton, A. (2010). To be or not to be on Facebook: this is the question. *Occupational Therapy Now*, 12(6), 19-22

さらなるガイダンスについては、ソーシャルメディア利用に関する声明書(Position statement on the Use of Social Media)を参照のこと。(訳者注:ここでは省略)